

平成28年度 学校評価結果報告書

小松市立中海小学校

	自 己 評 価				学校関係者評価		
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況	学校関係者評価者による意見	次年度に向けての改善計画
① 組織的な学校運営	(学校運営)	【努力指標】	分掌における取組が十分整理されており、共通理解のもと事業が進められていると感じている職員が	・教員アンケートの結果、達成率は100% ・各主任を中心に常任委員会を機能させるため、1学期後半に常任委員会の所属改編を行ったところ、責任の所在が明確になり各担当を中心に事業が進んだ。 ・運営委員会において、事業計画を共通理解し見直しをもって取組めるようにし、各主任を中心として事業が進み、PDCAが確実に行えるよう主任がマネジメントをした。	A	・運営委員会・常任委員会を、月に1回定期的に行うのが効果的である。 ・時間のやりくりをきちんと行い、教職員が安定した精神状態でポジティブに働くことができるようにしてほしい。	・改編した常任委員会は有効に機能したので、来年度も継続していく。 ・月1回の運営委員会・常任委員会を必ず設定することで、各主任が中心となり円滑な学校運営を目指す。 ・各委員会や担当において、よりPDCAを意識した事業を行い、特に検証・改善に力を入れていく。
	校長の学校経営構想のもとで、各主任を核に、組織としてPDCAサイクルを基盤とした学校運営を心掛ける。	各分掌において、計画・実行・検証・改善が進められており、各主任を中心に先を見通して校務が行われている。	A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満				
	(いじめ・不登校早期発見・早期対応)	【成果指標】	問題の未然防止・早期解決が図られたと考えている職員が	・教員アンケートの結果、達成率は92.5% ・いじめアンケートを年3回(5月・10月・2月)、児童アンケートを年2回(7月・1月)、QUを年1回(6月)行った。 ・アンケート、ケース会議、児童理解の会などが適宜もたれ、子どもの見取りにつながっている。 ・小さなことでも、きがかかりなことは一人で抱え込まずに報告・連絡・相談・確認を大事にしている。 ・職員全員が子どもと積極的に関わっておりいじめの早期発見や早期対応につながった。	B	・児童理解の会をきちんともっているのは良いことである。 ・いじめアンケートの結果は、学級担任だけでなく、教職員全員で見て確認してほしい。 ・保護者と学校が協力して、子ども達を見取るようにしてほしい。	・今年から作った児童理解シートを確実に引き継ぎ、来年度の学級経営に活かす。 ・児童理解の会や何か問題が起こった時を待たずに職員朝礼などの時間を利用してこまめに児童の情報交換をする。 ・服装や持ち物について児童間の理解に違いがあると、その理解の差がいじめの芽につながる。服装・持ち物について、年度初めに確実に共通理解をする。(制服の下のフードは可なのか、履物のブーツは可なのかなど)
	全職員が児童の小さな変化も見逃さない意識を持ち、組織的に問題の未然防止・早期発見・解決にあたる。	日常的な報告・連絡・相談を行うとともに、児童理解の会やいじめアンケートを定期的に行い、情報交換を密にする。問題発生時はチームで対応し、早期解決に努める。	A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満				
	(指導力の向上)	【成果指標】	OJT「なかみ道場」を年間	・年間10回実施できた。 ・各自の感想を付箋に書いてもらい、印刷配布して全体へ還元した。 ・12月末に、各自が実践できたことや学んだこと等を自己点検表に書いて振り返り、「なかみ道場」での成果を確認した。	A	・来年度も継続して続けていってほしい。	・日の設定は、年度当初に教務と連携して、10回分を設定できるとよい。 ・内容については、教科以外にも学級経営や生徒指導上のことなども学べるとよい。研修会とは区別し、OJTの主旨を明確に行うとよい。 ・若手の先生方の質問に答えるといった気の張らない会を計画するなど、会の持ち方を工夫するのよい。
校内研修や日常のOJTを通して、授業力、生徒指導力、学級経営力の向上に努める。【学びの指針10, 11条】	校内研修や「なかみ道場」等を通して、授業力・生徒指導力・学級経営力の向上を図っている。	A: 10回以上行った B: 8~9回行った C: 6~7回行った D: 5回以下しか行えなかった					
② 確かな学力の育成	(学力の定着)	【成果指標】	学力向上プランのチェックシートに沿って実践している職員が	・学力向上プランチェックシートに沿って実践している職員は85.7%であった。 ・運営委員会での話し合いや、チェックシートによる定期的な確認により、学力向上プランを実践できている。 ・各委員会の年間を通した取組が、横のつながりも含めて一目瞭然に分かるのでよい。	B	・算数や国語も、ぜひ取り上げていってほしい。どちらの教科も、今後とても重要になっていく。 ・書いたり、話したりする力は将来的に大変役に立つので、力を付けていってほしい。	・職員室入口に掲示してあるものの、年に数回の修正だけでは意識できない職員も見られた。 ・学力定着の検証という意味も兼ねて、定期的な検証を続けていく必要がある。 ・チャレンジプリントは、学習の定着を図る上で非常に良い取組であった。
	学力向上プランをもとに組織的・継続的に学力の向上に取り組む。【学びの指針10条】	学力向上プランの取組を確実に実践している。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満				

② 確かな学力の育成

<p>(授業力向上)</p> <p>「主体的に学ぶ子」の育成をめざして授業力の向上に努める。</p> <p>【学びの指針1, 2, 3, 4, 5, 6条】</p>	<p>【努力指標】</p> <p>自ら課題解決に取り組み、主体的な学習に進んで取り組んでいる。</p>	<p>「主体的な学び」のある授業づくりに取り組んだと感じている教職員が</p> <p>A: 100%</p> <p>B: 90%以上</p> <p>C: 80%以上</p> <p>D: 80%未満</p>	<p>B</p>	<p>・研究授業を行っているのが良い。</p> <p>・子ども達が興味を持って取り組める指導を行っているのが良い。今後も継続して行ってほしい。</p>	<p>・「主体的な問題づくり」に重点を置き、理科から他教科へとさらに広げていく。</p> <p>・低学年の主体的な取組について、考えていく必要がある。</p> <p>・学年間や教師間で授業を見合い、授業力の向上に努めていくようにする。</p>
<p>(家庭学習の充実)</p>	<p>【努力指標】</p> <p>家庭学習強化週間に、条件作文や新聞を活用した家庭学習に取り組んでいる職員が</p>	<p>家庭学習強化週間に、条件作文や新聞を活用した宿題を行っている職員は、94%であった。</p> <p>・強化週間以外でも、条件作文の宿題を出してきたので、児童が書くことへの抵抗感が減った。</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>	<p>A</p>	<p>・家族と一緒にいられる場所、親が子供を見られる場所で勉強することを大事にした。</p> <p>・家庭では、保護者がそれぞれの得意な面をいかし、役割を分担し、積極的に関わってほしい。学校は、保護者に呼び掛けて欲しい。</p>	<p>・順序立てて書いたり、論理的に説明したりという部分が、まだまだ苦手である。</p> <p>・「〇文で書く」「〇〇といったキーワードを使って書く」といった条件に合わせて書くことが出来ていない。</p> <p>・習った漢字を使って書くことが、苦手である。</p> <p>以上のことを踏まえて、課題を出していく必要がある。</p>
<p>活用力を高める家庭学習の充実を推進する。</p> <p>【学びの指針8条】</p>	<p>家庭学習強化週間に、条件作文や新聞を活用した家庭学習に取り組んでいる。</p>	<p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>			

③ 豊かな心の育成

<p>(道徳教育の充実)</p>	<p>【努力指標】</p> <p>内容を工夫した授業を学期に</p>	<p>・Aが6人Bが1人</p> <p>・導入の仕方・掲示物の準備・資料提示・板書の工夫を行った。また、発問や終末を考えて、授業した。</p> <p>・映像資料や「わたしたちの道徳」「道徳いしかわ」を活用した授業を実践した。</p> <p>・授業参観で授業公開を全学年がした。</p> <p>・校内研修会を行った。</p> <p>A: 3回以上行った</p> <p>B: 2回行った</p> <p>C: 1回行った</p> <p>D: できなかった</p>	<p>A</p>	<p>・教科化に向けて、研修や教材研究を続けて行ってほしい。</p>	<p>・授業で使った資料の整理をする。</p> <p>・研究との兼ね合いや児童の実態から別様の重点項目の見直しをする。</p> <p>・配当表を低・中・高2学年で見直す。</p> <p>・平成30年度の教科化に向けて、校内研修会をする。</p>
<p>(積極的な生徒指導)</p>	<p>【成果指標】</p> <p>児童の自己有用感を高める構成的グループエンカウンターを1年間に</p>	<p>・7人中3人がA評価、3人がB評価、1人がC評価。</p> <p>・構成的グループエンカウンターを通して自己有用感の向上につながった。</p> <p>・グループエンカウンターを通してクラスのルール作りや関係作りをしたが、なかなか時間をとることができなかった。</p> <p>・2学期中は1回しかできなかったという学年や定期的に行ったという学年もあった。</p> <p>A: 5回以上行った</p> <p>B: 4回行った</p> <p>C: 3回行った</p> <p>D: 2回以下</p>	<p>B</p>	<p>・グループエンカウンターは、楽しく関係づくりができる。時間のやりくりをうまく行うと良い。</p>	<p>・グループエンカウンターの時間確保が難しいという意見があったため、教分のエクササイズやミニレクレーションの充実を図りたい。</p> <p>・内容は担任裁量にせず、学年に応じてするべきエンカウンターの年間計画を3月中にて立て、管理運営計画に記載する。</p> <p>・教務と相談し、〇月の〇週目はエンカウンター実施期間と期間を決め、時間を確保する。</p>
<p>(キャリア教育の充実)</p>	<p>【成果指標】</p> <p>自分の目標やがんばっていることをみんなの前で話すことができる児童が</p>	<p>自分の目標やがんばっていることを皆の前で話せる児童が、81.7%であった。</p> <p>・保護者アンケートでも、87.2%と、児童とほぼ同じような結果となった。</p> <p>・朝の会、帰りの会、全校集会などでスピーチする場を意図的に設けたのも向上に繋がった。</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>	<p>B</p>	<p>・今後も、自信をもって自分のことを話せる児童に育ててほしい。</p>	<p>・「堂々と」「進んで」という言葉が入ると、なかなか難しく、個人差も出てくる。</p> <p>・全校集会や学級活動などで、話をする場を意図的に作ることを継続していく。</p>
<p>(読書活動の充実)</p>	<p>【努力指標】</p> <p>年間貸出冊数の目標(100冊)を達成している児童が</p>	<p>・年間の貸出目標を図書室に年度当初から掲示し、随時 達成人数を更新し読書指導にいかせるようにした。</p> <p>・おすすめ10冊を年2回行い、様々なジャンルの本に興味を持たせ、手に取る機会を増やすようにした。</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>	<p>B</p>	<p>・今後も取組を続けて行ってほしい。</p>	<p>・高学年の読書状況は、内容が豊富になるため冊数だけでは測れない。</p> <p>・努力指標を見直すことも必要かもしれない。(例:全校一律ではなく、低・高で目標を変える。ページ数を目標とする。等)</p>

③豊かな心の育成	〈情報モラル教育の推進〉	【成果指標】	ネットモラル検定で、9割以上とれた児童が	・全学年で、市教委作成の年間計画に沿った実践を行った。 ・ネットモラル検定も、全学年で94%という高い結果を残すことが出来た。	A	・今後も取組を続けていってほしい。	・2学期は担当より、ネットモラル検定の用紙を児童用分印刷して学紙に渡したことで、忘れずに実践することが出来た。次年度もそのようにしていく。
	市教委委員会作成の年間計画に基づいて、計画的に指導を行う。 【学びの指針7条】	児童がネットモラル検定で、9割以上とれるよう努める。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満				
④健やかな身体の育成	〈たくましい体の育成〉	【努力指標】	シャトルボールと8の字跳びに取り組んだクラスが	・縄跳び8の字とびに全学年が取り組んだ。クラス目標達成に向けて、体育で毎時間取り組んでいる学年が91%であった。 また、他学年のお手本を見た。	A	・身体づくりは大変大切である。元気がなければいろいろな事にもチャレンジできなくなる。子ども達が心身共に丈夫でいられるとよい。	・縄跳びは、取り組みやすく、今年度同様に取り組む。 ・シャトルボールは、スポーツテストに向け、早い段階で取り組む。 ・スポーツテストの結果から、持久力・握力が低いと分かったので、各クラスに握力を鍛える器具を置く。
	体育や体育的行事、スポチャレなどを通して、運動やスポーツの楽しさを味わえる児童を育てる。	年間を通して、スポチャレに取り組む。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	・シャトルボールは、取り組んだのが遅く、十分ではなかった。 ・体育委員会が全校対抗の企画をした。			
④健やかな身体の育成	〈健康教育〉	【成果指標】	早寝・早起き・朝ごはんが実行できている児童が	・児童アンケートでは、はい+まあまあ83.8%、保護者アンケートは、75.2%と前回より低くなった。15分チャレンジで15分早く寝ることに取り組んだ。2学期に実施した「15分チャレンジ」の結果から学校全体で見ると、児童の半数以上が「早寝」できていない実態がわかった。低学年でも寝る時刻が遅い児童が見受けられた。学校保健委員会で睡眠の大切さを取り上げたそのときは効果が表れたが、また、意識が低くなったようだ。 ・保護者アンケート朝食を食べている98.6%と前回よりよくなっている。	B	・身体づくりについては、家庭での生活が基礎をつくる上でたいへん重要なので、十分に家庭と連携をとっていくと良い。 ・今後も、素直な気持ちで過ごせる子ども達であってほしい。	・家庭学習強化週間や「15分チャレンジ」で早寝早起きに取り組んだが、あまりよい結果ではなかったもので、これからも起床・就寝の時刻をチェックすることを継続していく。 ・睡眠の大切さを指導し、早い時刻に寝よう児童に意識づけたり、家庭に呼びかけたりしていく。
	健康の増進、危険の回避、望ましい食生活等について、教科・特別活動等と関連させ、系統的な指導を行う。 【学びの指針8, 12条】	健康の保持・増進に関心をもち、望ましい生活を送っている子を8割以上にする。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満				
⑤家庭・地域との連携	〈あいさつができる子の育成〉	【満足度指標】	進んであいさつができたと感じている児童が	・児童アンケートでは、はい+まあまあ=92.5%、保護者アンケートはい+まあまあ=92.2% ・児童会目標達成に向け、委員会や各学年でミッションを考え1年間取り組んできた。	B	・小中連携のあいさつ運動の効果が表れている。継続して行っている成果である。 ・あいさつは心と心のふれあいである。中海校区の良さ伝統として、今後も継続して取組を行ってほしい。	・あいさつ運動やあいさつミッションがなくてもあいさつができる子を引き続きめざしたい。なぜあいさつをするのか、あいさつがなかったらどんな気持ちかといったあいさつの必要性を児童が感じるような取り組みをする。 ・児童会中心に児童に問いかけていくことを来年度は意識させたい。
	地域と一体となって社会性を身につけた児童を育成するために、時と場に応じたあいさつができる子を育てる。 【学びの指針9, 12条】	児童が身近な人に進んであいさつができたと感じている。	A: 95%以上 B: 85%以上 C: 75%以上 D: 75%未満				
⑤家庭・地域との連携	〈ふるさとに愛着をもつ子の育成〉	【努力指標】	ふるさとや地域の人から学ぶ活動を	・どの学年も、総合や生活科などを通して、地域の方を3回以上招き、学習を行っている。 ・ようこそ先輩 夢・未来講演会では、中海小出身の中川真依さんをお招きして、講演頂いた。キャリア教育の視点からも、非常に効果のあるひと時であった。	A	・ふるさとについて学ぶことは、地域を愛する子を育て、心を耕すという面においても大変効果的である。 ・夢・未来講演会については、保護者や地域の方にも案内し、子ども達と共に参加できると良い。	・3年はホテルとギフチョウ、4年は竹の子、5年は田植え、6年は福祉(グリーンポートと保育園)といった感じで、各学年の総合のテーマが決まっているので、これを継続したい。 ・1年生の生活科では、地域の人材を取り入れた学習が難しいが、計画的に行っていく。
	総合的な学習、体験学習をおしてふるさとの自然・文化・人々に学び、ふるさとを愛する心を持つ子を育てる。	ふるさとや地域の人などから学ぶ活動をどの学年も2回以上行う。	A: 3回以上行った B: 2回行った C: 1回行った D: できなかった				